

12-h マス・スクリーニングの研究成績一

長崎大学医学部小児科学教室

研究協力者 辻 芳郎・松坂 哲應

乳児ビタミンK欠乏症の予防対策として、私達は昭和54年12月からヘパラスチンテスト (HPT) を用いて、マス・スクリーニングを行なっている。現在まで約5,000例が受検し、その効果を判定したので報告する。

〔対 象〕

昭和54年12月から昭和56年11月までの2年間にHPTによるスクリーニングを受検した生後15日～54日の乳児。

〔方 法〕

対象をV・K₂非投与群、出生時のみ2～3mg投与した群、出生時に2～3mgと生後1週目に4～6mg投与した群、出生時に2～3mgと生後2週目に4～6mg投与した群の4群に分け、更にその4群を母乳栄養群、混合栄養群、人工栄養群に分け、各群のHPT活性値を比較した。

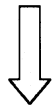
〔結 果〕

各群のHPT活性値の分布はほぼ正規分布をとった

が、V・K₂非投与の母乳栄養群では、正規分布から逸脱した30%未満の異常低値例が認められ、一方混合栄養群及びV・K₂投与群では認められず、有意にV・K₂非投与の母乳栄養児はV・K欠乏症におちいりやすかった。このHPT活性値30%未満の母乳栄養児にV・K₂6mgを経口投与すると急速に正常化し、その後2週間に経過観察中に再低下するものはなかった。混合栄養群及びV・K₂投与群のうちHPT活性値40%未満の児にV・K₂を投与しても、その上昇度は著明でなかった。スクリーニングを受検した者の中から発症したものはなかったが、受検前に発症した者が2例(29日令と30日令)あった。

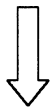
〔結 論〕

以上の結果から、スクリーニングの有効性は認められたが、その実施時期をどんな日令範囲に選べばよいか問題となった。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



乳児ビタミンK欠乏症の予防対策として、私達は昭和54年12月からへパプラスチンテスト(HPT)を用いて、マス・スクリーニングを行なっている。現在まで約5,000優が受検し、その効果を判定したので報告する。